

平成28年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価(年間) (評価規準 A:十分に実践されている B:ある程度実践されている C:不十分である D:分からない)

建学の精神 女性の自律・自主と先度他の心の涵養						
教育目標 白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。						
本年度の重点目標 ①学習指導の充実 ②進路指導の充実 ③生活指導の充実 ④情報発信の充実 ⑤健康管理 ⑥安全管理						
重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
①学習指導の充実	アクティブ・ラーニング	大学入試改革に向けて、アクティブ・ラーニングの実践方法等について考察する。 〔アクティブ・ラーニングの実践〕	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの導入を検討し、来年度から実施したい。それを含めて、アクティブラーニングを取り入れるため、各教科による研修、研究授業を実施する必要がある。</li> <li>研修に参加した教員からの情報は得ているが、自分自身の実践には至っていない。</li> <li>生徒の主体的な取り組み、活動が重要だと思われるので、ICTに限らず、考えさせる・考えをまとめ文章にする・それを発表するなど日々の授業の中で実践していくことが大切ではないか。</li> <li>中学生の授業では、比較的試みているが、生徒の能力差があり苦労している。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの導入は、今後必要になると考えるが、導入にあたり教員、生徒ともに導入の意味、価値を十分に理解したうえで活用することが大事だと思う。</li> <li>ICTの導入には大いに賛成ですが、生徒の自主性には未だ課題があるように思われますので、必要性を丁寧に指導してほしい。</li> <li>情報機器の急速な普及、及び入試改革に迅速に対応することが昨今の学校の「勢い」を一層高めることに効果があると思うので、この時期をチャンスと捉えたい。</li> </ul>
	学力分析と学習方法の考察	一つの学習集団において、全体の学力を上げていくために、全国規模の指標により生徒の学力を分析し、何を、どんな方法により学習させるべきかを考察する。 〔指標の決定と分析〕	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学進学クラスは進研模試を、その他のクラスは基礎力診断テストを行っているが、その結果からどんな学習をさせるべきかという考察までは出来ていない。学校規模で偏差値が向上した学校では、徹底的な事前・事後指導が行われているといった事例が見られる。これからの本校の工夫が必要か。</li> <li>GTECの導入を英語力の向上につなげたい。</li> <li>朝学習の時間を使つての基礎力診断テスト学習は効果が上がった。</li> <li>中学生は再試験、学習会の実施で学力が向上してきていると感じているが、全国規模の進研学力推移調査の事前・事後指導は不十分。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>模試、テスト実施の大切なことは、実施後の評価・分析・その後の指導であると感じるので、より一層の指導をお願いしたい。</li> <li>本校の現状が学力的にどのような位置にあるのか分析し、目標設定と実現手段について関係者全員の理解に基づく実施が必要だと思う。</li> <li>部活動の成果の素晴らしさを思うと、教科でも伸びそうな気がします。</li> <li>クラスによって目指すところが違うと思うので、それにあつた先生方の指導に期待したい。</li> </ul>
②進路指導の充実	就職指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年後の就職を意識させ、3年間を見通した指導計画を提示する。</li> <li>職場見学や講話を通して、社会人になることへの意識高揚を図る。</li> <li>徹底した面接指導及び基礎学力の充実を図る。 〔内定率100%達成をめざす〕</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校紹介での就職内定率は100%を達成。</li> <li>夏季休暇中の面接練習、午後の学習、3年職員による監督と教材の準備など、大変効果があつた。</li> <li>2年生を対象に担当者・担任との個別面接を1月から実施。</li> <li>2年生の希望者を対象に職場見学を実施。</li> <li>指導計画は、職員の共通認識と、いつ・何を・どんな指導をしているのかを考える必要がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職指導は他校と比較にならないほど、優れていると思う。</li> <li>就職してから、人間関係に悩む人が多いように感じます。職種別に、先輩の話を聞く機会をつくってあげてください。</li> <li>就職率100%は素晴らしい。進学の生徒以上に、学力の充実、礼法の実践などに力を注いでください</li> </ul>
	進学指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入試センター試験得点率70%に達する生徒を各学年5名以上輩出できるよう、学習環境を充実させ、一般、センター入試での合格者を増やす。 〔国公立大、中堅以上私大に学年の5%合格をめざす〕</li> <li>進路講演、ガイダンス、個別相談をキャリア教育として有効に行い、進学に向けて学習する意欲を育てる。</li> <li>中学から大学受験を見据えた学習環境を整える。 〔補講・学力向上学習会・スタディサブリの実施〕</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>センター試験トップは65, 8%。70%5人はそう簡単には達成できないが、50%以上の者が6名と確実に前年を上回った。</li> <li>国公立大・中堅私大5%は達成した。</li> <li>ガイダンスは数年前と比べるとミスマッチが減り、進路講演会も好評であつた。</li> <li>本校生徒がよく進学する学校の種類や特徴を詳しく知れる研修があるとよい。</li> <li>受験指導では、3年部以外の教員に教科・小論文・面接等手厚く行ってもらえた。</li> <li>スタディサブリは、担任の指導が不十分であつた。</li> <li>中学の学習会、サブリは生徒が意欲的に取り組み効果を上げているように思われる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年を超えた、受験指導体制は生徒にとってとてもありがたいことだと思う。</li> <li>オープンキャンパス参加を、1・2年次から呼びかけるべきだと思う。</li> <li>進学先の結果を見ると、学部、学科に本人の将来目標がはっきり感じられる。</li> <li>センター試験の結果、前年を上回りとても良かったと思う。</li> </ul>

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
③生活指導の充実	礼法教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>「your steps」に従い美しい所作を指導する。(椅子の掛け方、歩き方、ドアの開け方、お茶の入れ方など)</li> <li>会食指導は礼法にかなった食事作法を実践する。</li> <li>会釈・挨拶の励行をし、場に応じた挨拶の指導をする。</li> <li>「授業をする上での留意すべき事項」に従い、礼法指導に即した授業実践をする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導はされているが、実際に実践されているかという疑問が残る。</li> <li>学年が上がるにつれ、自然と丁寧な振る舞いができるようになっていように思う。</li> <li>礼法に対する生徒の意識は高く、他校との差別化ができていように思う。授業だけでなく、様々な面で指導がされている。</li> <li>お茶当番は、担任による事前指導と、お茶を出されている職員両方の指導が必要。</li> <li>会食がマニュアル化され、「忘れ物がなければよい」という堅苦しい行事になってきているような気がする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>礼法＝堅苦しいではなく、きちんとしたことができるのは「かっこいい」ことだと思えると、ステキです。</li> <li>他校の生徒を見ると、順心の生徒の公共の場での所作などは上品に感じます。</li> <li>礼法を高校時代に身に着ければ、折に触れにじみ出てくるものだと思います。</li> <li>順心の教育の特色の一つですから、継続した礼法教育をお願いしたい。</li> </ul>
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>「情報収集→まとめ→分析→報告」を繰り返し、教師相互の共通理解を図り、指導にあたる。</li> <li>一報を通して迅速な情報共有に努める。</li> <li>週番活動を通して校風高揚に貢献する姿勢を指導する。</li> <li>校風向上週間、マナーアップキャンペーンで清楚な身なりを指導する。</li> <li>清掃活動を通して環境美化に努め、施設を丁寧に使用することを指導する。</li> <li>教室内の整理整頓を通して私物の管理を正しく行い、清潔な生活感覚を育てる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一報による情報共有はできていた。その後の指導経過など報告が必要なものは、全体で共有できるとよい。また、一報の基準をしっかり設けたい。</li> <li>表出している問題と生徒の抱えている問題にズレがあり、指導が難しくなっていた件があった。教員間の共通理解が大切かと思う。</li> <li>個々の事例が複雑で、指導が難しくなっているように感じる。</li> <li>美化委員の清掃に対する意識をもっと高めたい。</li> <li>1年生からのしつけ・指導が3年生になり大きく影響するようになると思う。</li> <li>清掃については、自分の役割は果たすが、自分で仕事を見つけて活動する気の利いた生徒が育っていないこと、てきぱきと効率的に進めることができる生徒が少ないように思う。</li> <li>計画的に行われるマナーアップキャンペーンを通して、生徒の意識だけでなく、教員の指導する意識も向上させることが出来ている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつ伺っても清掃が行き届いていて、気持ちよく思います。</li> <li>十分指導されていると思いますが、いまだ、個々の自覚に差があるように見受けられます。</li> <li>清楚な身なりには、誰がいつ見てもすがすがさ、学生らしさを感じ、好感を持てる。</li> </ul>
④情報発信の充実	学年通信 学級通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信を、学年主任・担任と保護者とのコミュニケーションの一つと捉え、学年・学級の状況を伝える。 〔月1回発行〕</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、学年・学級通信を発行できている。しかし、生徒から保護者にわたっていない場合がある。また、本人が読んでいない場合がある。</li> <li>隔月のペースでの発行になった。</li> <li>通信は、学校から保護者への一番身近な情報発信である。充実させたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒から保護者に届いていないのかもしれないが、発行に関しては、学年で差があるように感じる。</li> <li>いつも拝見しています。参考になります。</li> <li>この通信は、私も（評価委員）見てみたいと思います。</li> </ul>
	オープン キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパスは年2回実施し、担任とのコミュニケーションを図る機会とするなど学校理解の促進に努める。 〔参加率70%達成をめざす〕</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加率 53% 過去3年間で60%台であり、ここ数年で最も低い参加率となった。</li> <li>保護者が参加したいと思えるような企画を検討する必要がある。</li> <li>オープンキャンパスの期間だけでも、HPを毎日更新したり、イベントを開催したりするなど、学年・学校全体で工夫できるとよい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>この企画は、いろいろな授業が見れてよいと思います。</li> <li>オープンキャンパス、地区会等、保護者の意識が低くなっているように思う。</li> <li>個別面談などを取り入れ、保護者への意識向上につなげたい。</li> <li>参加する保護者が限定されてしまっている様にも感じる。地域の人との交流や園児との交流等も取り入れても良いのでは？</li> </ul>
	ホーム ページの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信のタイムリー制と実用性の向上</li> <li>学年・分掌・教科内での原稿作成者決定（行事、検定等）</li> <li>各行事の更新担当を明記</li> <li>部活動記録の月毎の更新</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒募集や行事に関わることは、タイムリーな情報提供となっている。</li> <li>数年前に比べ、華やかさや情報のスピードなど格段に良くなった。</li> <li>Facebookを用いて、今後更に情報を発信していきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイムリーな情報発信とスピード感に魅力を感じています。</li> </ul>

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
⑤健康管理	保健管理 保健教育 健康相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の健康観察、定期健康診断の実施</li> <li>・校内の救急体制を整備し、家庭との連携を密にする。</li> <li>・生徒の成長や実態に即した健康教育を実施する。</li> <li>・健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。その際、必要に応じ、スクールカウンセラーとの連携を密にする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症については、学級閉鎖まではいかなかったが、校内での広がりがあった。</li> <li>・心身の不安定さを持っている生徒に対して、役割分担・連携の必要性を感じた。</li> <li>・各教室に加湿器を置けないだろうか。</li> <li>・保健室の利用カードを使うことにより、保健室と担任との連絡が素早く行えた。</li> <li>・学校・家庭・教員・カウンセラーの連携が非常にうまく機能している。</li> <li>・生徒向け又は教員向けの精神的な健康管理に関する講演があると大変勉強になると思う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身ともに健康で生活することが大切なので、健康教育も積極的に実施して欲しい。</li> <li>・学校全体で気配りしていただいていることに感謝します。</li> <li>・感染症が大きく広がらなくてよかったと思う。</li> </ul>
⑥安全管理	避難訓練の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校独自の避難訓練を年2回実施 〔5月―地震防災（講堂からの避難訓練）〕 〔9月―火災防災〕</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回とも雨天のため計画した訓練は実施できなかったが、講堂から体育館への避難訓練は実施できた。</li> <li>・訓練内容は、晴天時と雨天時の2パターン考えておくとよい。地震や津波に関する講演があるとよい。</li> <li>・集団下校の際のグループ、またそのリーダーを決めておく必要がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自助・共助・公助の概要を生徒たちに教えながら、訓練することが大事だと考えます。単なる訓練にならないようお願いしたい。</li> <li>・集団下校の際の通学路は必ず、保護者に伝えておくべきだと思います。</li> </ul>
	職員防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災関係の職員研修会を実施</li> <li>・初期消火訓練、救急対策講習会などの実践的訓練を通し、職員の意識向上を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年連続で職員のためのAED等救急対策講習を実施し、意識は高まった。</li> <li>・救急法では、搬送や保温、三角巾法など災害時に必要な知識・技術の研修も実施したい。</li> <li>・発災時の職員の行動確認を毎年行いたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練同様、救急法も回を重ねていくことが大事だと思います。</li> <li>・災害後の復旧に向けた行動についても、今後ご検討いただければと考えます。</li> </ul>